

「ヒ

ット商品といえるものは、その商品のどこかに消費者の心を捉えるものがあります。私は商品開発に携わって来た者として、また二〇機種に及ぶミリオンセラーの商品を開発してきた担当者として、社内の後進の人たちに『説明するな、惚れさせろ』といつも言っています。消費者の感性に訴えるものがなくてはヒット商品になりません」と語るのは、オリンパス株式会社研究開発センターのテクニカルチーフアドバイザーの鈴木達哉さんです。

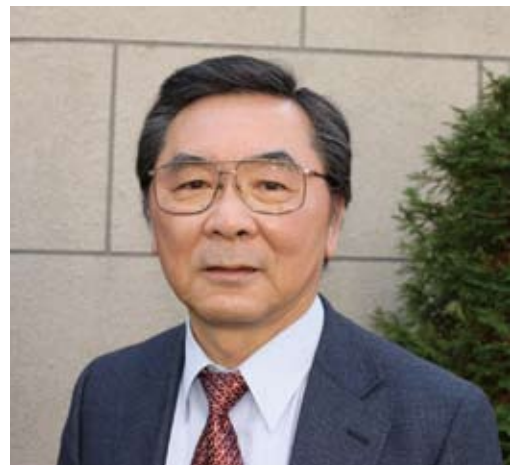
鈴木さんはオリンパス入社後、開発部門の業務を担当し、一九八六年には「ぬれピカ」という愛称で親しまれた世界初の生活防水カメラ「AF・1」を、八八年には限定二万台が全て予約段階で完売となった「O・プロダクツ」九一年には単機種で五〇〇万台、シリーズ全体では二五〇〇万台以上という売上を記録したμシリーズの開発責任者として、相次いでヒット商品を世に送り出しました。

でも、鈴木さんの気持ちの中には「開発したものがごとくミリオンセラーになったとはいえ、数年もすればいずれも陳腐化してしまう商品というものに疑問を感じていました。愛着を持って長く利用できる商品を開発したい」という思いが、「木」という材料にアプローチすることになったようです。

二〇〇六年秋、オリンパス株式会社は二年に一度ドイツのケルンで開催される世界最大

## 緑のエッセー

オリンパス株式会社研究開発センター  
テクニカルチーフアドバイザー  
鈴木 達哉



すぎき たつや  
1947年1月17日神奈川県小田原市生まれ。日本大学生産工学部機械工学科卒業、卒業論文「流体理論素子の研究」。1970年オリンパス光学工業株式会社入社、開発部門に勤務、AF-1 (1986)、O・product (1988)、μシリーズ (1991～) などのヒット商品の開発を担当。1999年 オリンパス株式会社研究開発センター所属

のカメラショー「フォトキナ」に『木の外装デジタルカメラ』を参考出品しました。本年九月にはこのオリンパスの技術を利用してNTTドコモが『木のケータイ・タッチウッド』の試作機を発表しています。この双方の商品の外装に用いられた圧縮成形木材は、鈴木さんが「世界にひとつだけの本物の製品、愛着を持てるものを開発したい」という思いから開発されたものです。高知県四万十の間伐ヒノキを素材に使い、立体的に削り出した木片をカメラレンズの製作技術である非球面レンズ用の金型技術を利用して高温水蒸気中で圧縮成形したもので、木質繊維中の空隙を○・一ミクロンまで縮小させることで耐水性、耐久性に優れた製品となっています。

「木は狂う、曲がる、割れる、腐る、燃えると言われています。素材という観点からは扱いづらい材料です。しかし、木には木目などひとつと同じものはなく、また、ぬくもりの肌合いを持ったすばらしい、魅力的な材料でもあります。木の使い道を考えるとき、理屈にとられないで、楽しんで取り組むことが大事だと思います。木の特性を生かせるような分野を他産業と協力して模索するような取組が木の業界には必要なのではないのでしょうか」と、鈴木さんはこれまでアプローチしてこなかった分野での木材利用の必要性を指摘しています。